

普及だより

●編集発行
 大隅地域振興局農林水産部農政普及課
 肝属地域農業改良普及事業協議会
 ホームページ <http://www.pref.kagoshima.jp/chiiki/osumi/index.html>

鹿屋市打馬2丁目16-6
 TEL：0994-52-2146
 FAX：0994-52-2147

< 平成30年度普及活動の方針について >

肝属地域の農業振興上の課題や施策等を踏まえ、農業者や関係機関・団体と密接に連携しながら、次のような普及活動を展開します。

1 肝属地域の農業を支える担い手の育成

将来の地域農業を担う新規就農者、青年農業者、農業経営者塾修了生等への発展段階に応じた支援を行い、次世代を担う農業者の経営管理能力の向上や関係機関と連携した新規就農者への支援体制の確立を図ります。

2 肝属の特性を活かした産地づくり

野菜、果樹、花き、畜産、水稻等の品目について、試験研究機関等で開発された技術や畑かんを含めた現地で実証された技術等を組み合わせ、地域の特色を活かした取り組みを展開し、技術の確立・普及を図ります。また、安心・安全な農産物を生産するために、IPM技術の確立・普及とGAPを取り組む農業者の支援を行います。

3 地域の特色を活かした地域営農の仕組みづくり

地域農業の持続的発展のために地域の営農を支える集落営農組織等の育成や水稻経営体の育成などによる水田営農の仕組みづくりと特産品開発による地域振興を進めます。



新規就農者パソコン簿記研修



新規就農者への巡回支援



特産品の開発支援



GAP実践事例研修



天敵放飼(ゲコ)のIPM技術



畑かん地区での技術実証活動

<指導農業士及び青年農業士の認定者紹介>

「指導農業士」とは、優れた農業経営を実践し、青年農業者の育成に対する熱意と指導力のある農業者を知事が認定するもので、地域農業を支える青年農業者等の育成を支援していただいています。

県内では平成30年1月末までの県指導農業士の会員数は227名となっており、**肝属地区では、平成29年度に新たに3名が指導農業士に認定され、現在46名で活動しています。**

肝属指導農業士会では、新規就農者の巡回訪問をはじめ、新規就農者・青年農業者を対象にした各研修会における助言指導、就農トレーナー研修会など、青年農業者の育成支援のために積極的に活動しています。新しい指導農業士が加わり、今後さらに活発な活動が期待されます。



(ふくもと いさお)

福元 功 さん

鹿屋市, 生産牛



(しんぶく はるみ)

新福 春美 さん

肝付町, 生産牛



(おつじ かずよし)

尾辻 一義 さん

南大隅町, 養豚

<青年農業士の認定者紹介>

肝属地区において新たに青年農業士に認定された方を紹介します。

今回は肝属地区より1名の青年が「青年農業士」として認定されました。

東さんは東串良町池之原で施設きゅうりを栽培しています。

今回「きゅうり栽培における新たなIPM技術への挑戦」のテーマに取り組み、土着天敵「タバコカスミカメ」を活用した難防除害虫「ミナミキイロアザミウマ」対策及び「硫黄くん煙」による「うどんこ病」対策において、いずれの病害虫抑制効果が得られたことが評価されました。



東善寛さん (東串良町・きゅうり)

<農業経営者クラブ 功労賞受賞>



前田清輝氏は、長年、肝属地区経営者クラブ員として活動し、支部長等役員を18年間努められました。普及活動等で開催する各種行事へ積極的に参加し、肝属農業の将来を見据えた意見を多く提言されています。経営面では、茶と野菜の複合経営を営み、農産物加工による6次産業化を目指すとともに、平成28年度農林水産祭むらづくり部門において、垂水市大野原地区が農林水産大臣賞の受賞となる原動力として活躍されました。現在は、農業体験受入など農業の素晴らしさを若者に伝える活動に取り組み、県農業経営者クラブ功労賞を授与されました。

<農山漁村女性活動功労者表彰>



堀之内節子氏は、吾平地域で平成3年に農産物加工グループを立ち上げ、女性起業活動に発展させました。また、平成5年の鹿児島県農村女性海外研修への参加がきっかけとなってグリーン・ツーリズムに取り組み、大隅地域でいち早く農家民宿を開業させました。さらに、農協の理事や生産部会長を務めるなど、地域農業の振興や方針決定の場において活躍されました。これらの活動が地域における女性の経営参画、起業活動の広がりにつながり、魅力ある農山漁家経営の確立に果たした功績が大きいことから農山漁村女性活動功労者表彰(経営部門)されました。

<畑かんマイスター4名を委嘱しました>

肝属中部地区において、今年度から一部地域で本格通水が開始されます。通水に伴い、これまでの「雨待ち農業」から、計画的な作付けによる農業生産が可能になるとともに、増収・品質向上効果が期待されます。さらに、施設園芸の導入などにより、高収益農業の展開も可能になります。

この畑かん水の活用方法、散水器具取扱については、随時、各市町を通じて情報提供を行う予定ですが、すでに、自ら畑かんを活用した優れた営農を先駆的に実践している農業者を「畑かんマイスター」として委嘱して、受益農家のみなさまに直接情報提供、指導を行っていただき、より迅速に畑かん営農の普及を行っていかうと考えています。本年度は以下の4名を委嘱しましたのでよろしくお願いします。



門倉順一氏
(鹿屋市吾平・露地野菜)



倉ヶ崎忠氏
(鹿屋市吾平・露地野菜)



武田裕史氏
(肝付町新富・施設野菜)



前村光昭氏
(肝付町後田・施設果樹)

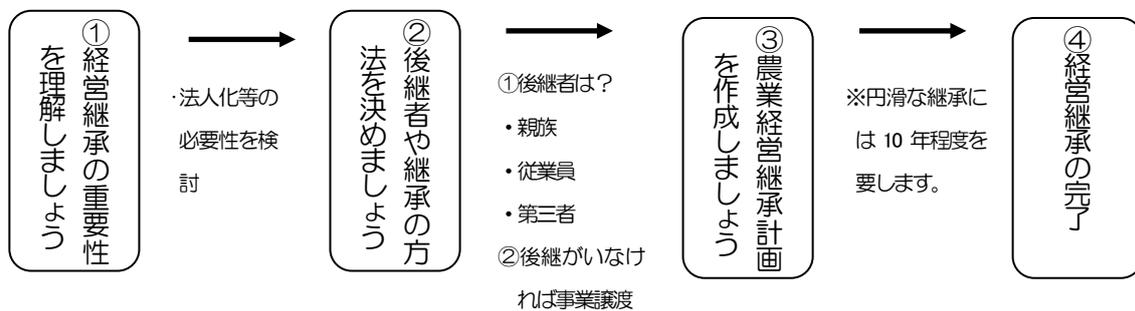
知って**得**する! 技術情報!! ～経営編～

<みなさん、農業経営の円滑な継承を考えてみませんか!>

農業経営の継承とは、農地や機械・設備等の有形資産とともに、技術・ノウハウ・人脈等の無形資産を次世代の経営者に引き継いでいくことです。大隅地域振興局では、みなさまがこれまで培ってきた有形・無形の資産を見える化し、次の経営者に円滑に継承していただくことを目的に「農業経営継承計画」の作成支援を行っています。平成29年度は、5戸の農家が農業経営継承計画を作成しました。

1 経営継承のステップ

円滑な経営を行うために、次のようなステップを進めます。



2 経営継承に向けたチェック項目

円滑な経営継承を行うためには、次の項目を検討することが必要です。特に大規模な経営となり雇用者を抱える農業法人では、入念な準備が重要です。

- (1) 経営継承を含めた中長期的な経営計画
- (2) 継承すべき資産の把握
- (3) 後継者（候補）の選定
- (4) 後継者の教育方法
- (5) 代表権・経営権の移行時期
- (6) 財産や株式の分配と対策
- (7) 親族・従業員・取引先など関係者の理解



<継承計画作成の話し合いの様子>

3 経営継承に向けた支援について

- (1) 経営継承に関する研修会

大隅地域振興局では、毎年、「農業経営法人化推進研修会」を開催しています。今後は、当研修会において、農業経営の継承に関する情報提供も行っていきます。

- (2) 専門家の派遣

平成29年度から「経営継承計画」の作成を支援するため、税理士等の専門家を派遣しています。3回程度の専門家派遣を通じて、経営者のご家族が上記のチェック項目等を整理し、経営継承計画シートの作成をお手伝いします。

「経営継承計画」の作成に向けた専門家派遣を希望する方は、担当普及指導員または各市町の担い手支援担当課にご相談くださるようお願いいたします。

知って得する! 技術情報!! ～野菜編～

<新たな天敵で施設さやいんげんの白化莢・コナジラミ類の防除>

さやいんげんの白化莢の軽減・コナジラミ類の防除について、平成28年度から垂水市で取り組んでいる天敵によるコナジラミ類の防除、白化莢の発生軽減対策について紹介します。



幼虫寄生葉
<さやいんげん白化莢(防除所提供)>

1 さやいんげんの白化莢とは?

平成17年頃からタバココナジラミの発生が増加し、同時に白化莢の発生が多く見られました。特に18年、19年はコナジラミ類が多発し、白化莢が多くみられ、産地では大きな問題となりました。

白化莢の発生メカニズムは、コナジラミ類の幼虫が多く葉に寄生することで、寄生葉の上位節の莢が白味を帯びます。

2 新たな天敵「リモニカスカブリダニ」でコナジラミ類を防除する。

「リモニカスカブリダニ」は、コナジラミ類やアザミウマ類、ホコリダニ類を食べることで防除効果を発揮します。以前、「スワルスキーカブリダニ」を活用し、コナジラミ類の防除を試みていたが、15℃以下の低温下では効果的な防除効果を得ることができませんでした。

今回、新たに13℃以上を活動温度とする「リモニカスカブリダニ」により、コナジラミ類を低密度に抑え、白化莢の発生を軽減できました

(図1, 表1)。

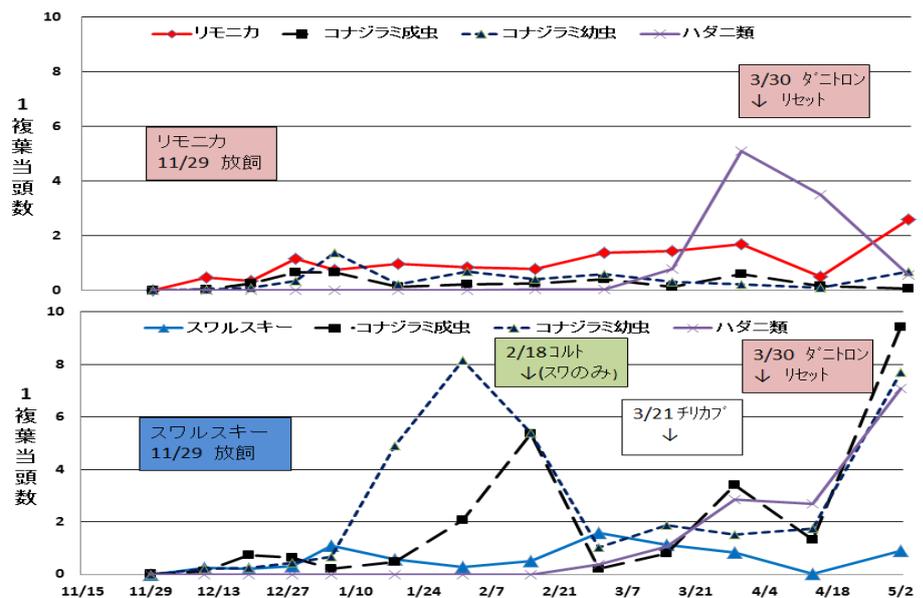


図1 リモニカ・コナジラミ類の発生推移

3 導入時のポイント

- (1) は種前、ハウス侵入防止対策として、防虫ネット設置(ハウスサイド, 谷, 入口)
- (2) 生育初期の黄色粘着シートによるコナジラミ類の成虫捕殺
- (3) リモニカ放飼前の薬剤防除(ゼロ放飼)
- (4) リモニカ放飼後、10~14日間の薬剤防除を控え、リモニカの定着を促す。
- (5) コナジラミ類が増加し始めたらリモニカに影響の少ない薬剤による補完防除(必要なとき)
- (6) 天敵に影響のない薬剤等によるハダニ類の防除が必要。
- (7) 栽培終了後、ハウスの蒸し込みを行い、次作に持ち込まない。

表1 H28年度 白化莢の発生率

	3月29日	4月14日	4月28日	5月19日
リモニカ区	0.0%	0.0%	0.7%	1.2%
スワルスキー区	0.0%	0.0%	6.9%	5.7%
慣行区	0.0%	0.1%	1.7%	12.4%

※4月28日以降調査は1列調査(10株以上×2列)、それ以前は農家調査

知って得する!技術情報!!～作物編～

< サツマイモつる割病とその対策について >

近年、サツマイモつる割病の被害が増加しており、減収要因の一つとなっています。今回はサツマイモつる割病の概要と苗消毒による予防対策についてお伝えします。

【病原菌】

- フザリウム菌（糸状菌の一つ）
- 生育適温は28℃～30℃
（35℃～12℃で生育可能）
- 土壌中に長期間存在
- 育苗、植付直後から収穫時期まで発病
- 植物の導管部分を侵す

【感染経路】

- 苗の切り口や細根の傷口から侵入
- 感染した種イモを育苗に使用した場合、苗に伝染
- 採苗用の刃物（はさみなど）を介して伝染

【病気の特徴】

- 導管が侵され、つるが裂開(写真1)
- 株全体が萎れ、後に枯死(写真2)
- 収穫間際の感染では、外見上異常のないイモにも病原菌が侵入し、潜伏



(写真1)



(写真2)

【防除の要点】

- 感染していない健全な種イモを使用
- 苗床やほ場の土壌消毒
（クロールピクリン、バスアミド微粒剤など）
- 苗の消毒（ベンレート水和剤）
- 抵抗性品種の使用
（紅はるか、ダイチノユメ）

【ベンレート水和剤による苗消毒の注意点】

- 苗の基部（切り口から10cm程度まで）を**500～1,000倍**希釈液に**20～30分間浸漬**
- 希釈したその日の内**に消毒液を使用
（希釈した翌日以降では効果が著しく劣る（写真3））

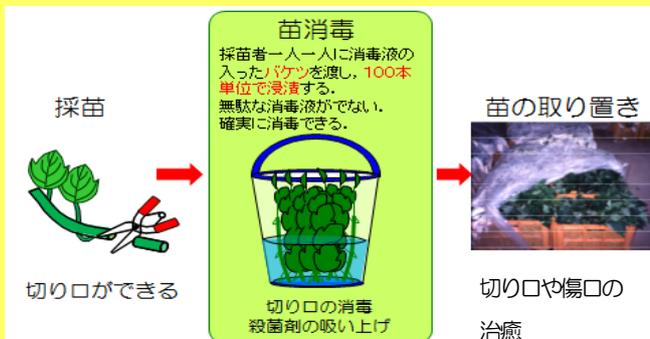
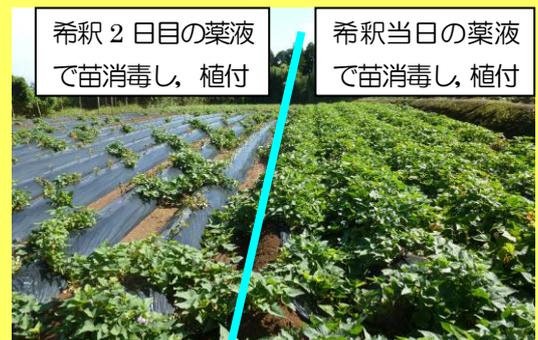


図1 バケツを用いた苗消毒

★効率的な消毒方法

採苗者一人一人にベンレート水和剤希釈液の入ったバケツを渡し、100本単位で消毒を行っていくと少量の消毒液で効率的に消毒を行えます！

サツマイモつる割病が発生すると生育不良や欠株を招いてしまいます。この病気に対する治療方法は現在確立されていないため、苗消毒や土壌消毒、健全な種イモの確保などの**予防が重要**になります。予防をしっかりと行い、安定した収量を確保しましょう。

知って得する! 技術情報!! ~畜産編~

<畜産部門におけるICT農業の現状>

ICT (Information and Communication Technology) は「情報通信技術」の略であり近年、ICT農業はスマートフォンやタブレットの急速な普及に伴って、農業分野でも採用されつつあります。農業のICT化によるメリットとしては、①生産の効率化、高付加価値化、省力化、低コスト化。②経営の効率化。③業務運営の効率化、高度化。④暗黙知・ノウハウ等の見える化・知財化。⑤人材の育成。⑥トレーサビリティの確保、GAPへの対応等、通信や人工知能等を駆使し、これまでには考えられなかったような多方面での分野で効果が発揮出来、これからどんどん様々な種類のものが考案されていく可能性があります。

今回、管内で入りつつある畜産分野でのICT農業の事例を紹介します。

分娩通報システム

携帯電話	スマホ	タブレット
	◎	○

<利点>

- ・分娩事故防止
- ・付き添い負担の軽減
- ・発情発見

<概要>

- ・牛の膣に体温計を装着し、ネットを介して体温が送信・分析され、破水等を知らせる

<こんな方におすすめ>

- ・目を離れた時に分娩事故が発生する方
- ・夜間分娩が多いなど、付き添いが大変な方



歩数計

携帯電話	スマホ	タブレット
	◎	○

<利点>

- ・発情発見

<概要>

- ・牛の足に歩数計を装着し、ネットを通じて歩数・足踏みが送信・分析され、発情を知らせる。

<こんな方におすすめ>

- ・微発情や発情見逃しでお困りの方。




発情・疾病通報システム

携帯電話	スマホ	タブレット
	◎	○

<利点>

- ・発情・疾病発見

スマホが台帳代わりになる

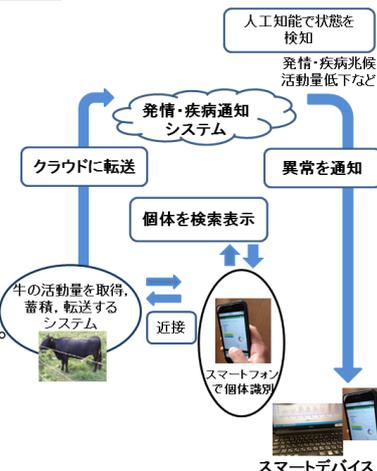
- ・家族や獣医らとの情報共有

<概要>

- ・牛に首輪を装着し、ネットを通じて牛の動きが送信・分析され、発情を知らせ、疾病兆候等も分かる。
- ・それらの情報を統合・活用し、今後の繁殖成績予測等も分る。

<こんな方におすすめ>

- ・大規模経営の方
- ・労力不足の方
- ・情報集約・活用したい方



個別型ほ乳ロボット

携帯電話	スマホ	タブレット
	◎	○

<利点>

- ・省力化、子牛疾病の早期発見、予防

<概要>

- ・機械が自動でミルクを作成し、従来の方式と異なり、人工乳首が子牛の口元に移動し、予め決められた量や濃度で飲ませる。同時に目の体温をセンサーで測定し、疾病の早期発見を図る

<こんな方におすすめ>

- ・飼養頭数が多く、人工ほ乳の負担が大きい方




これらのICTを導入することで、今までに分娩介助や発情発見、子牛のほ育等に多くの労力や時間がかかっていたものが、大幅に省力化されます。経営発展のきっかけづくりとして導入を検討されてみてはいかがでしょうか。

< 県青年農業者会議でプロジェクト発表 >



平成30年2月14～15日、鹿児島県青年農業者会議が伊佐市文化会館で開催されました。肝属地区農業青年クラブ連絡協議会からは、プロジェクト発表の部1人が地区代表として出場しました。

日頃、取り組んでいる活動成果を発表するプロジェクト発表では、**東串良町4Hクラブの東善寛さん**が、課題名『きゅうり栽培における新たなIPM技術への挑戦』と題して、土着天敵を活用した害虫対策と硫黄くん煙による病害対策についての成果を発表しました。

< 農政普及課の転出者&転入者の紹介 >

4月の人事異動による大隅地域振興局農政普及課の転出者及び転入者は、以下のとおりです。

	転 出			転 入		
	職 名	氏 名	新所属	職 名	氏 名	旧所属
農政普及課	課 長	永吉 治	退職	課 長	翁長 武利	鹿児島地域振興局 農政普及課
	技術補佐	田中 浩人	大島支庁 農政普及課	技術補佐	福倉 清美	農政部 畜産課
農業振興 第一係	技術専門員	大森 洋一	南薩地域振興局 農政普及課	技術専門員	和合 由員	農政部 農産園芸課
農業振興 第二係	係 長	今園 公也	大島支庁 農政普及課	技術主幹兼 係長	川越 尚樹	農政部 農産園芸課
	専門員	有川 健一郎	大隅地域振興局 農林水産総務課	主 査	山下 剛史	大隅地域振興局 総務企画部
	技術主査	住吉 弥生	北薩地域振興局 農政普及課	技術主査	里中 いづみ	北薩地域振興局 農政普及課
畜産振興係	技術専門員	新川 裕樹	曾於地かんがい 農業推進センター	技術専門員	鶴田 洋一	農業総合センター 畜産試験場
畜産普及係	技術主査	上村 信治	北薩地域振興局 農政普及課	技術主査	吉永 健一郎	再任用
経営普及係	技術主査	渡辺 葉子	曾於地かんがい 農業推進センター	技術専門員	前田 文恵	北薩地域振興局 農政普及課
茶普及係	技術専門員	尾崎 重尚	始良・伊佐地域振興局 農政普及課	農業技師	永留 萌	新規採用
野菜普及係	技術専門員	東 幸男	曾於地かんがい 農業推進センター	技術専門員	安水 義寿	大島支庁 農政普及課
	農業技師	石橋 佳衣	農政部 農政課	農業技師	池之上 祐紀	新規採用